

國學院大學學術情報リポジトリ

〔紹介〕 石本道明・青木洋司著『論語
朱熹の本文訳と別解』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松野, 敏之, Matsuno, Toshiyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000468

紹介

石本道明・青木洋司著

『論語 朱熹の本文訳と別解』

松野敏之

「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ」（自分がして欲しくないと思うことは、他人にしてはならない）——当たり前と感ぜられることであるかもしれないが、これは『論語』を典故とする言葉である。『論語』を読むことは、今に生きる我々が知らず知らずのうちに抱いている常識を探求することにもつながるであろう。

二千年以上前に編纂された『論語』の歴史は長く、その解説書も多い。現代の検索機能を利用して『論語』を調べてみれば、容易に五千種以上の書籍が見つかる。検索から漏れていたり散佚したりした注釈書や英語・フランス語などの訳書まで含めれば、どれほどの数にのぼるか分からない。

本書も『論語』の訳書の一つではあるが、従来とは異なる特徴が二点ある。一つは、『論語』を朱熹の解釈に基づいて訳し

ていることである。それもかつて出版された『孔子全書』全十冊（吹野安・石本道明著、明德出版社）の研究成果に基づきながら、東アジア全体に大きな影響力を与えた朱熹の解釈を読みやすい訳文によって紹介するのである。

二つ目の特徴としては、「別解」として朱熹以外の解釈も挙げていることである。一例を挙げれば、『論語』雍也第六に「力足らざる者は、中道にして廢す。今女は晝れり」という孔子の言葉がある。訳文は朱熹の解釈に基づいて、倒れるまで努力した者だけが「力不足」と言えるのであって、「自分で自分の限界を決めてしまって（得られるべきものまでも失って）いる」と訳す。その一方で「別解」では、日本の荻生徂徠が、孔子は各々の力量に従って無理強いらしいと解釈したことを紹介する。孔子は、倒れるまでやってみることによって初めて得られるもののあることを述べたとする朱熹に対し、力量に応じて導いていくのが孔子のやりかたであるという徂徠の解釈を紹介するのである。「別解」を含めながらも一冊の書にまとめられた本書は、『論語』の深みを味わうことのできる導入書となっている。

（A5判、四三二ページ、明德出版社、二〇一七年十一月、定価一九〇〇円＋税）